

## 令和7年度町政懇談会議事録 (THINKING OF KIKAI)

- 1 日 時 令和7年8月5日(火) 18:00~19:20
- 2 場 所 HOWBE
- 3 出席者(役場) 隈崎町長、中村企画観光課長  
企画観光課: 八木補佐、作井
- 4 出席者(町民) 15人
- 5 テーマ 人口減少について

### 6 内容

(THINKING OF KIKAI 代表 谷川友里さんより)

THINKING OF KIKAI という会は、昨年5月から月に1回集まり、島の課題について話し合い、7月で15回目を迎えた。会を始めたきっかけは、「消滅可能性都市」という記事で、喜界町が含まれているのを見て、「何かできることはないか」という思いから。今回のテーマは「人口減少」であり、町長のビジョンや思いを聞きながら意見交換を行いたい。

#### (1) 人口の現状と対策について

(参加者)

町長就任時(2020年10月)の人口は6,880人に対し、2025年7月末時点では6,231人。町長はその数字を率直にどう思うか。

(町長)

私が役場職員であった20年前から人口減少への懸念を抱いている。データに基づいて、人口減少を食い止めるための政策を職員が作り、私がその良し悪しを判断する。また、町民のアイデアを反映させたいと思っている。

(参加者)

第6次総合振興計画は令和13年までとなっているが、13年度末の人口、島の現状はどうなっていると思うか。

(町長)

人口問題に特化した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を今年3月に策定しており、5年後、10年後、20年後の人口予測データも含まれる。少子高齢化が進む中で、自然減は避けられない。社会減の中でも特に若年層の減少が顕著であり、結婚する人や出産する人も減っている。「仕事」、「住む場所」、「交通」がないことから島外に出て行ってしまう。どうすれば島に残ってもらえるか、来てもらえるか。出産にかかる医療費、教育費を重点に予算を付け、住みやすい環境を整えたい。

(参加者)

ここは特に力を入れたいとか、核になるような人口減少対策は何かあるか。

(町長)

先ほど申し上げた「医療」、「教育」。若者に住んでもらえるような政策に力を入れたい。まずは行政が補助をする。次に町民からも「ここはこうしよう！ここは無駄！」という意見を言ってもらいたい。

(参加者)

町の総合戦略基本理念に「子や孫の世代が住んでよかったと思える元気な島」とあるが、今Uターンで島に住んで子育てしている人たちが、子どもに「島っていいんだよ」と伝えて、子どもたちや次の世代も同じような流れで島に帰ってくるといった感じで、Uターンを増やしていきたいというメッセージ性を感じた。具体的には単身者、リタイア層、もしくはIターンなど、どのようなターゲットを想定しているか。

(町長)

希望としてはUターンを増やしたいが、農業のきつさや、都会での仕事があることから帰ってこない。島に帰ってくる回数が減ると、島への愛着も薄くなっていくので、帰ってこれるような関係性を繋いでおかないといけない。また、島に全く縁のない層にも魅力を発信していかないといけない。

(参加者)

Uターンしたい人や帰省したい人がいる話は聞くが、交通費の問題がある。気軽に帰ってこれるような支援はないか。

(町長)

島民や準島民は離島割引があるが、Uターンしたい人たちへの支援はないので、奄振への要望等も検討したい。

(参加者)

他自治体では移住支援金などの補助を行っているが、選ばれる町になるために、何をやっていくか。

(町長)

選ばれる町になるためには、補助金だけでなく、島の文化や地域の人との付き合いも重要。ただし、昔からの慣習（男尊女卑など）は変えていく必要がある。

## (2) 出産・子育て支援と島内出産環境について

(参加者)

人口増加のためには、U I ターンを増加と出生率を上げるしかない。出生率を上げるためには、特に

お金の問題が大きい。今後どのような金銭的支援を考えているか。1人目が生まれたら10万円、2人目が生まれたら20万円といった金額設定について、理想でも良いので具体的な数字で示してほしい。

(町長)

具体的な金額は現時点では言えないが、方向性としては法律や制度に応じて上げていきたい。予算の編成は理由付けが必要。財源はあるのか、町単であるなら持続可能かを考えないといけない。国は地方の努力を求めつつも十分な予算をつけていない現状があり、地方が率先して動く必要がある。

(参加者)

出産・子育て支援に集中的に予算を付けた方が、一番のPRになると思う。今やらないと減少する一方だ。

(町長)

支援は出産祝い金だけでなく、教育費の負担軽減等もあわせて総合的に進める必要がある。その予算を増やすためには、どこかの予算を減らさないといけない。単独ではなく、持続可能な政策でなければならない。

(参加者)

子どもを育てる以上に出産はハードルが高く、出産しようという気持ちになれない。喜界町でも出産旅費の補助があるが、それを増やそうと思っているのか、これ以上は無理なのかといった返事を聞きたい。子どもが生まれたら教育費がかかるのはわかるが、まずは生もうと思えるような、昔に比べたら負担も少ないと思えるような対策を検討してもらえるのか返事が聴けたら安心する。

(町長)

額は言えないが、方向性としてはそうしたいと思っている。政策としては教育費もセットでやらないといけない。

(参加者)

島外での出産に伴う精神的負担を軽減するため、島内で出産できる環境を整備できないか。病院の先生に相談した時に、「ボランティアじゃない。万が一何かあった時に設備が整っていない。まずは母体の命が大事。」と言われたことも十分に理解しているが、人(産婦人科医)とお金を準備して、ハード面を整えることで離島のデメリットを解消し、住民の不安を取り除けると思う。

(町長)

過去には島で出産できた時期もあったが、現在は困難な側面がある。望みとしては、島内で出産できる体制にしたいので、必要な予算があれば投入したい。

(参加者)

人口減少、航空便の減便、商店の減少といった現状が町民の将来への不安を増幅させている。町長の具体的な方針や未来へのメッセージ（「子育て支援に力を入れていく」といった言葉や数字）が、町民の安心につながる。今回のような町長とお話する場が、町民の声を届けられて、安心材料にもなる。

### (3) 町民の無関心と意識改革について

(参加者)

町民の多くが人口減少に無関心であるように感じられ、盛り上がり欠ける。役場任せではなく、町民一人ひとりが危機感を持ち、行動するような意識改革が必要。町長が SNS などを活用し、もっと積極的に町の取り組みを発信して勢いをつけてほしい。THINKING OF KIKAI のような会にも、もっと町民が参加してほしい。

### (4) 計画の数値目標と見直しについて

(参加者)

町の計画には、将来人口や出生率などの目標数値が記載されている。出生率の目標 2.0 に対し現状 1.53、年少人口（0～14 歳）目標 728 人に対し現状 665 人などと、現時点で目標をだいぶ下回っているが、具体的な対策や見直しが必要ではないか。また、5 年ごとの見直しでは遅い。

(企画観光課)

これまでの 5 年に 1 回の見直しでは遅いと認識しており、来年度からは毎年検証を行う。目標値も単年度ごとに設定し、各課が集まって進捗を確認する。担当者の異動によって施策が継続しにくい問題も、毎年の見直しで改善を図る。

### (5) 町民の声の吸い上げについて

(参加者)

町職員は普段から町民の声を聞いていると思うが、町職員と町長はどのようにコミュニケーションを取って共有しているのか。定例会や課長会などを開いているのか。

(町長)

若い頃はコミュニケーションの場で職員から直接意見を聞く機会があったが、現在は職員とのコミュニケーションが不足していると感じる。町民の声を上に上げていくことが重要だが、それが少なくなったことは私の責任でもあると感じている。課長会議は回数を多くしている。

(参加者)

コミュニケーションではなく、普段の業務でのコミュニケーションを知りたい。普段の現場に落ちている声を拾い上げていたら、計画と現状がどれぐらい外れているのかを把握しているはず。5 年に 1 回、計画を見直しで目標数値を下方修正するのでは全く意味がない。

(参加者)

町民が困りごとを役場に伝えても、クレームとして扱われたり、聞く耳を持たない態度をとられたりして、話した結果改善されたという話もあり聞いたことがない。直接会話しなくてもメールでもやりとりできるのではないか。

(参加者)

役場は、朝礼は行っているのか。

(町長)

各課では週に1回行っている。

(参加者)

クレームとして扱われるのは大問題。役場内で注意喚起を行ってほしい。

(参加者)

今日の会議内容も含めて職員に共有してほしい。今日の話聞いてて“ぬるま湯”だと思った。一日5分でもいいから、一日の気付きを報告していくことが町を良くする。LINEやメールも活用し、町民の声を吸い上げる努力を日々行うべき。吸い上げた中で決定するのがトップだと思う。喜界町の人口減少は誰のせい？町民のせい？トップが責任と熱い気持ちを持って考え尽くしてほしい。

(参加者)

施策の中身をもっと町民に伝えて士気を上げないと、周りに「喜界町いいよ！頑張ってるよ！」とも言えない。

(参加者)

今日集まっているメンバーから、不安と安心という言葉があったが、ここでみんなが発言するのは、やっぱり町や自身の未来へ「期待」するから。町としてどうありたいかをみんなで目線を合わせて話し合っただけが切れば、不安も払拭され安心につながっていくと思う。

(参加者)

5か年計画の話は、報告書をつくるためというニュアンスを感じてしまうので、もう少し細かいスペースで、みんなで話し合える機会を作って進めたらいいと思う。

(参加者)

若い子たちの島への愛着を育てないといけないので、中高生など若い世代の意見を聞く機会も設けて、町民一体となって人口減少対策に取り組む雰囲気作りが重要。今日の話は価値がある。

## (6) 施策への提案について

(参加者)

短期・中期・長期的に解決できるところを分けて、U I ターンを呼び込むには、他の地域がやっていないようなぶっ飛んだことをやらないと注目されない。離島の有利・不利な面を考慮しつつ、国内外の成功事例・失敗事例を学び、町民の想いやアイデアを取り入れて島独自の施策を作ることが大事。町民の声を受け取る窓口を作ってほしい。

(町長)

人口が増えてきている海士町などの事例も参考にして、情報を共有するコミュニケーションの場を作り、町民からの意見に一つひとつ回答していきたい。他の地域と違うことをしないといけないと思っている。人口減少問題の最終的な責任は私が取る。

(参加者)

「どうせ減るし、言ってもしょうがない」といった空気が上回ってしまっているのは確かだが、その中でも動こうとしている人はいるので、それが失われないようにみんなで協力できる形をとってほしい。民間でできることを考えているが、行政じゃないとできないことがほとんど。町から発信がないと一緒にできないので、みんなを巻き込んでいける仕組みをお願いしたい。

【マインドマップ】

